

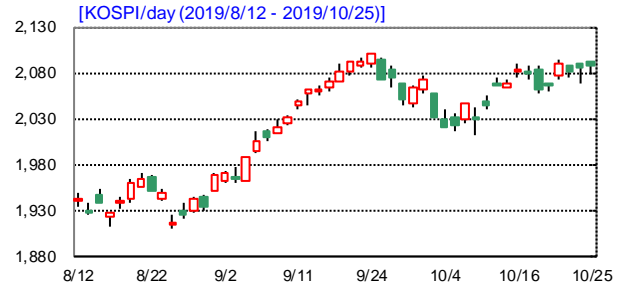


## 【韓国】 総合指数は 1.3%高と 3 週続伸、主力半導体銘柄が市場けん引

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.3%高と 3 週続伸。23 日を除いて反発し、総じて売り優勢の展開だった。週初 21 日はメモリーチップ業界の回復などが伝わり、ハイテク銘柄の業績期待から小幅ながら 3 営業日ぶり反発。22 日も米中通商協議を巡る楽観でリスク選好意欲が高まり続伸した。23 日は英国の欧州連合 (EU) 離脱の不透明感や前日までの続伸で利益確定売り優勢の展開。24 日は 7-9 月期の国内総生産 (GDP) が市場予想を下回り、相場の重荷になったものの、主要銘柄の底入れ期待から反発。25 日は米半導体大手インテルの 7-9 月期売上高が市場予想を上回り、半導体関連株の買いが相場を支えた。今週も英国の EU 離脱の行方や米中情勢をにらみつつ神経質な展開か。今週は 1 日に 10 月の CPI 上昇率が発表される予定。

▼指数チャート

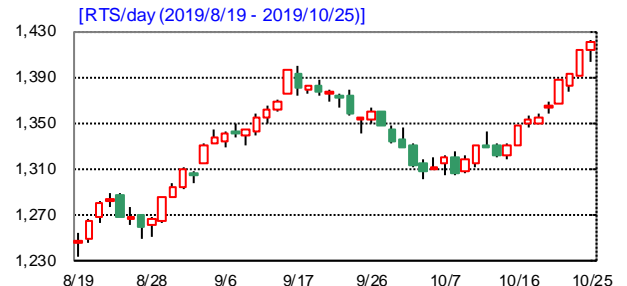


## 【ロシア】 RTS 指数は 4.9%高と 3 週続伸、今週は利益確定売りが上値抑えるか

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 4.9%高と大幅に 3 週続伸。米中貿易交渉の進展期待や原油高・欧州株高が買いを促し、指数は約 6 年ぶりの高値を更新した。週明け 21 日は米中通商交渉の進展期待を背景に買われ、RTS 指数は前営業日比で 0.7%高。その後も、原油価格の高騰や欧州株高、企業の増配観測などが市場のリスク選好を強めた。国内における物価上昇率の低下観測に伴う利下げ期待もロシア株の支援となった。指数は前週から 25 日まで 9 日続伸し、1421.20 ドルで終了。終値ベースで約 5 年 10 カ月ぶりの高値を更新した。個別銘柄では石油のスルグトネフテガス (28.8%高)、ルクオイル (6.9%高)、天然ガスのガスプロム (8.2%高) などの上昇が指数を押し上げた。今週は高値警戒感から利益確定売りが上値を抑える展開か。

▼指数チャート



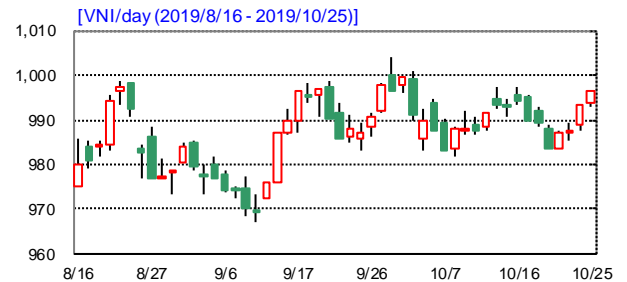
## 【ベトナム】 ベトナム指数は 0.7%高と反発、今週も半導体市況の回復見通しを好感か

### 感か

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 0.7%高と反発。米中貿易摩擦問題の改善期待や半導体業界の先行きに対する楽観姿勢を背景に買い優勢の展開が続いた。週明け 21 日は時価総額の大きい金融株が売られ、指数は前営業日比で 0.6%安となったが、その後は米中通商合意への期待に加え、ラム・リサーチやインテルなどの半導体株が好決算を背景に大幅高となったことでセンチメントが改善し、指数は 22 日から 25 日まで 4 日続伸。ベトナムでは海外の半導体関連企業が工場を設立する流れが強まっており、半導体業界の展望を楽観視する動きも買いを促した。個別銘柄ではベトジェット航空 (4.9%高)、ベトコムバンク (3.5%高)、ピナミルク (1.5%高) などが指数を押し上げた。今週は半導体市況回復見通しが引き続き相場の支援となるか。

▼指数チャート

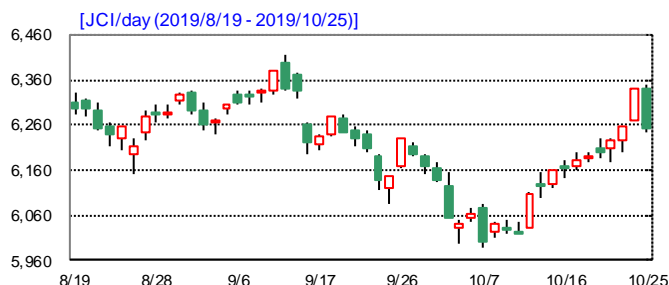


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.0%高、中央銀行が 4 会合連続の利下げを決定**

ジャカルタ総合指数は週間で 1.0%高と 3 週続伸。週後半は荒い値動きだった。21 日は小幅ながら 7 営業日続伸してスタート。その後も中央銀行の金融政策決定会合を 24 日に控え、4 会合連続での利下げに対する期待感から 23 日までじりじりと上値を広げた。24 日は中銀が政策金利を 0.25%引き下げ、5.0%に設定した効果で指数は前日比 1.3%上昇し、終値で 6 週間ぶりに 6300 ポイントに到達したが、25 日は財務省が今年の財政赤字について、これまでの見通しを上回る対 GDP 比 2.0-2.2%に膨らむとの見解を示した影響で、前日比 1.4%安と 11 営業日ぶりに反落した。今週は 1 日に 10 月の CPI が発表される予定。

### ▼指数チャート

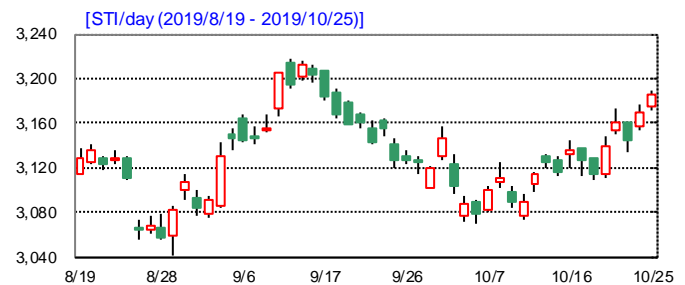


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 2.3%高、政府系投資会社がケッペルを子会社化へ**

スレーツタイムズ指数は週間で 2.3%高と 3 週続伸。おおむね堅調に推移した。週初の 21 日は政府系投資会社のテマセク・ホールディングスがコングロマリット大手のケッペル・コーポレーションを子会社化すると発表した効果で関連銘柄が買われ、指数は 3 営業日ぶりに反発。22 日に続伸した後、23 日は利益確定売りで反落したが、24 日に買い戻されると、25 日は 9 月の鉱工業生産が前年同月比 0.1%増加し、5 カ月ぶりに前年の水準を上回ったことが好感され続伸して引けた。今週は国内の経済イベントが少なく、中国の 10 月の製造業 PMI が意識されそうだ。28 日はディーパバリ (光の祭典) のため休場。

### ▼指数チャート

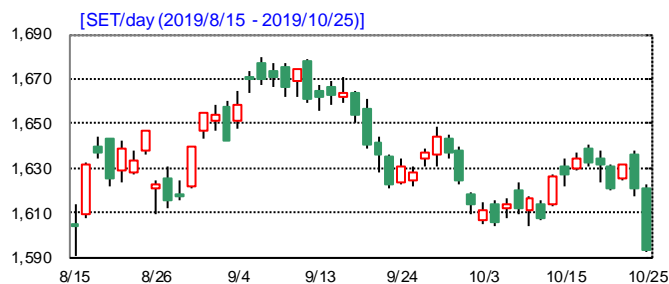


## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.3%安、不良債権比率の上昇懸念で金融株が下げを主導**

SET 指数は 4 日間の取引で 2.3%安と 3 週ぶりに反落。週末の下落が響いた。週初の 21 日は 9 月の輸出額 (通関ベース) が前年同月比 1.4%減と市場予想から下振れした影響で 3 営業日続落。22 日は 1 億 9100 万米ドル相当の景気刺激対策が閣議で承認された効果で反発した。一方、祝日を挟んだ 23 日は商業銀行大手のカシコン銀行が来年の不良債権比率について、今年の水準から悪化するとの見通しを示したことが嫌気されて反落。24 日も金融株が下げを主導し、指数は終値で前日比 1.7%安と約 9 カ月ぶりの安値を更新して取引を終えた。今週は 29 日に 9 月の鉱工業生産、1 日に 10 月の CPI が発表される予定。

### ▼指数チャート

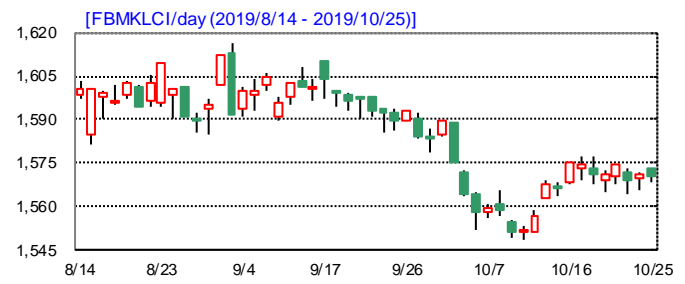


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.1%安、小幅なレンジで一進一退**

クアラルンプール総合指数は週間で 0.1%安と小幅に反落。狭いレンジで一進一退を繰り返す展開だった。21 日は前週末からほぼ横ばい。22 日は前日の NY ダウが反発した流れで買い優勢の展開となったが、23 日は米半導体のテキサス・インスツルメンツが前日に発表した 10-12 月期の業績見通しが市場予想を下回り、世界経済の減速懸念が広がった影響で反落した。24 日はパーム油価格が 16 カ月ぶりの高値を更新した効果で反発したものの、25 日は再び反落して取引を終えている。今週は国内の経済指標発表が少なく、29-30 日に開催される米 FOMC の内容が焦点になる。28 日はディーパバリの祝日で休場。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。